

第10回 地域医療貢献奨励賞 受賞者（平成28年度）

阿部 吉弘	山形県西置賜郡 小国町立病院・院長
<p>昭和52年日本大学医学部卒。平成3年4月から小国町立病院長として勤務以来、現在まで25年にわたり、山間へき地であつ全国有数の豪雪地という厳しい生活環境下において、地域住民の安心、安全の砦である町立病院の安定的発展に尽力してきた。また、早くから退院患者の継続看護に取り組み、在宅での生活水準を高めていくことに取り組んだ。さらに、平成5年には在宅介護支援センターを開設し、高齢者の多様な相談に応じる体制を整えた。また、平成17年から毎年10人規模の研修医に対して、地域医療の重要性とその在り方を伝えている。これらの取組は、地域医療が抱えている課題解決に向けた多様な試みの継続であり、その根底には「小国町における地域包括ケアシステムの構築」がある。これに果たしてきた業績は大きいと言える。</p>	
鈴木 孝徳	千葉県南房総市 南房総市立富山国保病院・院長
<p>昭和59年自治医科大学卒。卒後義務年限内の平成2年6月から旧富山町立富山国保病院に派遣されて以来、平成3年3月には同病院院長となり、義務年限終了後も継続して地域医療に貢献している。特に、義務年限内外の自治医科大学卒業医を集め、医師不足であった富山地区の地域医療の確保・推進に寄与した功績は大きい。また、早くからリハビリテーション事業に着目し、自ら千葉県リハビリテーションセンターへ研修に出向くなど、積極的に活動し、平成9年3月に同病院にリハビリテーション科を開設。さらに平成11年4月には整形外科を開設するなど、公立病院として地域のニーズに的確に対応している。また、平成14年度には、町保健福祉センター長も兼務し、地域の高齢化に対応するため、訪問看護ステーションの設置や各種相談業務の充実を図るなど、町の保健福祉に寄与した。そして平成18年3月南房総市誕生に伴い、病院長として、市の保健、医療、福祉の中心的存在として、地域住民の健康保持増進に大きく貢献するとともに、県南の感染症対策にも寄与する等、一貫して地域医療の推進に大きく貢献している。</p>	
金子 吉彌	静岡県静岡市 大川診療所・所長
<p>昭和58年島根医科大学卒。昭和61年5月から離島である佐渡島の佐渡厚生連羽院勤務において、内科医1名、外科医1名のみという極めて人手が少ない中、地域住民のために骨身を惜しまず診療に従事してきた。その後、公設民営の静岡市大川診療所の前任の医師が病に倒れ、当該地域が無医地区になる可能性がある中で、前任医師からの要請と、医師招致に対する地域住民の切実な要望に応えるべく、診療所開設を決断した。そして、新潟県佐渡市から静岡県静岡市への移住に加え、静岡市の中心部から20km以上も離れた山間地域での診療所開設という二重の負担があるにもかかわらず、「山間地医療に骨を埋める覚悟」で平成10年9月1日大川診療所所長に就任した。現在に至るまで、小中学校等6校1園の校医、園医を務め、地域の児童生徒の健康増進に貢献している。また、広範囲の往診にも対応し、自ら車を運転して、地域住民のために労力を惜しむことなく往診を行っており、永きにわたり山間地へき地医療の向上に大きく貢献している。</p>	

中村 達	奈良県桜井市 南奈良総合医療センター・へき地医療支援センター長
<p>昭和54年自治医科大学卒。平成6年度より特別豪雪地域である新潟県国民健康保険大和町立ゆきぐに大和総合病院に10年間勤務した後、平成16年度より奈良県立五條病院でへき地医療支援部長として、また、奈良県へき地医療支援機構専任担当官として、へき地医療行政の推進に大きく貢献している。へき地拠点病院に対する派遣業務の要請、へき地診療所に勤務する医師の派遣調整を行うだけでなく、自らも代診や巡回診療を行うなど、後方支援も積極的に行っており、診療所を設置する市町村からの信頼も厚い。また、自治医科大学卒業医に対し、プライマリケアの研修を実施し、指導医をまとめる立場として、プログラム作成や研修実施に携わっている。常日頃よりカンファレンスを実施し、へき地診療所で勤務する医師の診療支援を行うなど、若手医師の指導にも熱心に取り組んでいる。</p>	
大原 昌樹	香川県仲多度郡 綾川町国民健康保険陶病院・院長
<p>昭和60年自治医科大学卒。昭和62年から香川県三豊総合病院、陶病院を通して約30年、在宅医療を多職種と連携し継続して行っている。三豊総合病院では、へき地巡回診療に継続して取り組み、陶病院では、外来診療、入院診療ともに在宅医療、健康教育、へき地診療所支援などに取り組んできた。いろいろな職種が地域に出かける「移動健康教室」の仕組みをつくり、自らも多くの地域に出向いている。また、香川大学、自治医科大学大学生や初期臨床研修医を地域医療実習として継続して受け入れ、平成24年には、「地域医療スピリットin綾川」を開催し、地域住民を交えたグループワークや懇親会を通して、学生等に地域医療について考える場を作った。一方平成17年から「香川シームレスケア研究会」を立ち上げ、在宅や施設を含めた地域連携を当初から模索、医師、歯科医師、薬剤師、看護師、介護支援専門員、地域連携室などと連携し、マニュアル・事例集を含めた「医療介護地域連携パス」を完成させた。また、在宅医療のIT化事業にも取り組んでいる。</p>	
黒木 重三郎	宮崎県東臼杵郡 国民健康保険諸塚診療所・嘱託医、副所長
<p>昭和31年九州大学医学部卒。平成8年に慢性的な医師不足にあえぐ故郷諸塚村に単身で戻ってきた。同年11月着任以来、19年以上にわたり諸塚村の地域医療に率先的に取り組み、患者から厚い信頼を得ており、86才の現在でも現役の勤務医として国民健康保険諸塚診療所に勤務している。諸塚村は過疎化と人口の高齢化が著しい中、いち早く在宅診療を立ち上げ、「待つ医療」から「出かける医療」を心がけ患者やその家族、地域に安心を与えている。また、在宅医療や在宅介護の大切さを理解してもらうために「これからの在宅医療を考える」と題して、諸塚村内16地区の自治公民館で講演を実施する等、患者はもとより地域の住民からも厚い信望を得ている。さらに、平成25年8月1日から診療所内に「地域住民医療相談室」を開設し、個人やその家族などの相談を受けるなど今なお積極的かつ意欲的に地域医療の発展に取り組んでおり、その姿勢は、県内外の医療を志す者の手本となっている。</p>	